SAPPORO

第99期
株主通信

Contents

社長メッセージ …… 01

サステナビリティ トピックス …… 02

Pick Up
DX人財育成のための取り組み …… 03

サッポログループ トピックス …… 04

財務データ …… 06

株主優待情報 …… 07

会社情報／株式情報 …… 08

サッポロホールディングス株式会社

証券コード 2501

創業以来の**開拓者精神**を発揮し、グループビジョンに向かって一歩一歩着実に前進していきます。

代表取締役社長 **尾賀 真城**

新たな価値創造に挑み 個性かがやくブランドカンパニーへ

サッポログループは、創業150周年を迎える2026年度に向けた長期経営ビジョン『SPEED150』において「個性かがやくブランドカンパニー」をグループビジョンに掲げ、140年を超える歴史のなかで培われた「ブランド資産」を成長の源泉として持続的な企業価値の向上を目指していくことを表明しました。私たちにとって「ブランド」とはステークホルダーとの信頼の証です。これまでに培ってきた「商品・マーケティング」「イノベーション・品質」「人財」といった強み、さらにはお客様の消費体験やコミュニケーションなど、さまざまな要素によってブランドができあがると考えています。

私は、これらのブランドの価値を高めるには、独自性と継続性、そしていつまでも古びることのない時代性という3つの要素が重要だと考えています。サッポログループは、創業以来、新たな市場の開拓に挑戦することによって、世の中に潤いと豊かさをもたらす独創的な商品を生み出してきました。そうした価値創造の積み重ねがブランドへの厚い信頼につながり、時代を超えて多くの人々から支持されてきたのです。これからもサッポログループは「開拓者精神」を発揮して新たな価値創造に挑み、ブランド力を最大化していきます。

中長期的な企業価値向上に向けて

私は社長に就任して以来、方針を明確にすること、それをわかりやすく伝えること、そして迅速に行動することを大切にしています。

現在、長期化するコロナ禍や国際紛争に起因するエネルギー・資源価格の高騰など、事業環境は一層不透明さを増しています。このような変化の激しい環境下にあるからこそ、我々は強い意志をもって新しいことにチャレンジしていくことが大事だと思っています。チャレンジしなければ成功する確率はゼロだと考えるからです。

グループの星マークは、かつて開拓者にとって道標となった北極星を表しています。激動する時代の中、私たちも北極星のような確かなビジョンに向かって一歩一歩確実に前進を続けてまいります。株主の皆様には、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

SUSTAINABILITY ACTION

グループ全体のサステナビリティの
取り組みについてはこちらをご覧ください

PDFダウンロード

『責任ある飲酒の推進』のグローバルスローガンを策定

サッポログループは、アルコール関連問題に世界的に取り組んでいくため、2021年、グローバルスローガンとして、「Promote Responsible Drinking」を定めました。「サッポログループの適正飲酒に関する基本方針」のもと、社員一人ひとりがその推進役として、適正飲酒の啓発と不適切な飲酒の防止に取り組んでいきます。

● サッポログループ各社での取り組み

商品やWebサイトへの純アルコール量表示を開始 SB

日本国内で製造・販売する主なアルコール商品について、各商品や商品100mlに含まれる純アルコール量（g）を2021年6月からサッポロビールWebサイトで開示。缶商品については缶体への表記を2022年1月から開始。

ノンアルコール商品の開発 SB

飲酒運転防止や体調のケアなど、お客様の多様なニーズに応えるノンアルコール商品の開発、販売により、適正飲酒をサポート。

アルコール専用グラスを導入 SLN

サッポロライオンの各店舗においてアルコール専用グラスを導入し、清涼飲料との誤飲事故防止策を強化。2021年は誤飲事故0件・飲酒運転0件を達成。

プラスチックの資源循環の取り組みを推進

サッポログループは、海洋プラスチック汚染に対する世界的な関心の高まりや、レジ袋をはじめとする無償提供されていたプラスチック品の有料化の進行など、社会全体でプラスチックのさらなる削減が求められている状況を踏まえ、2021年10月に「サッポログループ プラスチック方針」を策定しました。

サッポログループプラスチック方針

サッポログループでは、持続可能な社会の実現に向けて、事業活動で使用するプラスチックについて、以下のステップで検討・取り組みを進め、循環型社会の構築に貢献します。

①プラスチックの使用場面を見直し、不要な使用をなくします
②減量化等の削減に取り組みます
③リサイクル性の高い設計や、再生材・バイオマスプラスチックに転換します

● サッポログループ各社での取り組み

「ワンウェイプラスチック」製の広告品類を削減・廃止 SB

一度使われただけで廃棄されるプラスチック製の広告品類を2023年までに50%削減*、2030年までに原則廃止。

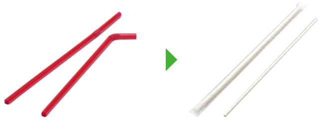
*2019年比

「富士山麓のおいしい天然水」の一部にリサイクルPETボトルを採用 PS

2030年までに販売するPETボトル商品のリサイクル原料使用割合50%へ。

国内製造ワイン用PETボトルは、2030年までにリサイクル原料使用割合50%へ SB

プラスチック製ストローは紙製ストローに順次切り替え SLN



略称表記 SB サッポロビール PS ポッカサッポロフード＆ビバレッジ SLN サッポロライオン

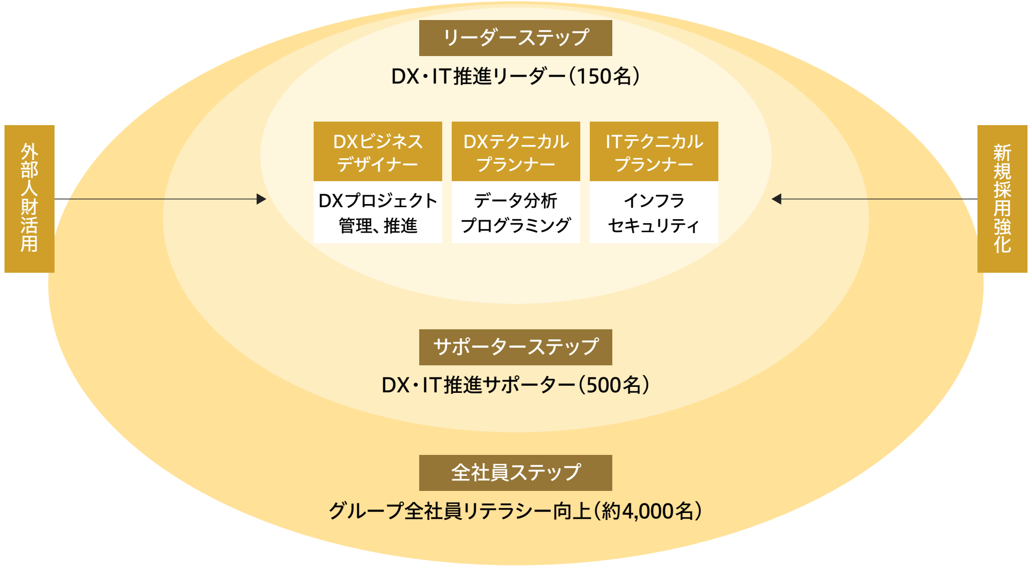
Pick Up

DX人財育成のための取り組み

DX・IT人財育成プログラムで「全社員DX人財化」を推進

　サッポロホールディングスでは、DX事業環境整備の一つである「人財育成・確保」の一環として、2022年に「DX・IT人財育成プログラム」をスタートさせました。これは、外部で開発された育成プログラムを活用しながらDX・IT案件を推進できる人財を増やし、最終的には「全社員DX人財化」を図ることで、グループ全体の戦略推進力向上を目指すものです。また、DX・IT推進リーダーを3つの専門人財として定義していることも特徴です。各教育プログラムの終了後は、DX・IT人財を社内で継続して育成していく体制の構築を目指しています。「全社員DX人財化」という明確な目標を掲げることで、社内の組織、環境、マインドなどの変革を促し、企業としての強さや柔軟性にも良い影響を与えることができると考えています。

DX・IT人財育成プログラムの全体像



* サッポロホールディングスおよび主要5事業会社（サッポロビール、ポッカサッポロフード＆ビバレッジ、サッポログループ食品、サッポロライオン、サッポロ不動産開発）の社員が対象。（各子会社・関係会社も一部含む。店舗従業員除く。）

VOICE

DX戦略の推進により、新たな価値の創出を目指します。

　サッポロホールディングス社長が自ら「全社DX推進宣言」を発したことで、デジタルリテラシーを向上させる取り組みが本格的にスタートしました。積極的なPRも功を奏して、社内の機運は非常に高まっています。「全社員DX人財化」を目指し、事務局として長期にわたる育成プログラムを完遂させ、顧客価値の最大化を目指すとともに、持続的な企業価値向上を実現するため邁進いたします。

サッポロビール株式会社改革推進部 兼
サッポロホールディングス株式会社
経営企画部 マネージャー
河本 英則

酒類事業

1 「サッポロ生ビール黒ラベル」缶、7年連続売上拡大 アップサイクルの取り組みに挑戦

「サッポロ生ビール黒ラベル」は、20代の支持を集め、2021年には缶製品が7年連続での売上拡大を果たしました。さらなるブランド価値向上のため、2022年4月にブランド初のオンラインショップ「サッポロ生ビール黒ラベル THE SHOP」をオープン。ビールの製造工程で派生するモルトフィードなどの副産物からつくったデニム生地を使用した「黒ラベル Malt & Hops JEANS」を同ショップで抽選販売*1し、画期的なアップサイクル製品として注目を集めました。

*1 限定数量は既に完売しています。

2 米国ストーン・ブリューイング社を子会社化へ 北米事業のさらなる成長にむけて

サッポロUSAは、グループ中期経営計画に掲げる「グローバル成長の推進」の一環として、ストーン社の子会社化を決定しました。サッポロUSAでは「サッポロブランド」が2021年に過去最高売上を記録するなど、着実な成長を遂げていますが、今回の子会社化により、ストーン社が米国の東西にもつ2工場を取得することで、これまで課題となっていた生産能力向上や、物流コスト削減、品質安定化の実現が期待されます。さらに、米国IPA市場のパイオニア的存在である「Stone IPA」などの有力ブランド獲得は、事業成長の後押しとなります。

3 「サッポロ 三ツ星グレフルサワー」新発売 新たな定番商品を提案

サッポロビールは、5月にグレフルサワー専門ブランド「サッポロ 三ツ星グレフルサワー」を発売しました。こだわりの三ツ星レシピ*2でつくった圧倒的ジューシーな味わい*3とほとばしる香りが特長です。「お気軽リッチ気分」の新ラインナップとして、お客様に新しい選択肢を提案します。

*2 ①にごり果汁②追いグレフル③濃い味仕立て」によるグレープフルーツのおいしさを最大限引き出す当社独自のレシピ。

*3 当社比。

4 銀座ライオンビル 登録有形文化財（建造物）として登録

1934年に大日本麦酒（株）の本社ビルとして竣工した「銀座ライオンビル」は、2022年2月17日、国の登録有形文化財（建造物）に登録されました。当ビルの1階にて開店し、本年創建88周年を迎えた『ビヤホールライオン 銀座七丁目店』は、現存する日本最古のビヤホールです。銀座の歴史的建造物として愛され続けたビヤホールを誇りに、今後も食文化の向上と地域社会の発展に努めます。

5 サッポロライオン123周年 ビヤホールの創業祭「ビヤホールの日」

サッポロライオンは、2022年８月４日で創業123周年を迎えました。全国各店（一部店舗除く）では、同日「ビヤホールの日」に、取扱いのある生ビール全品を終日半額にて提供する創業祭を実施しました。3年ぶりの開催のご盛況に、一世紀を超えるご愛顧を深く実感しました。新しい時代においても外食を通してお客様に「生きている喜び」を届けていきます。

サッポログループ
トピックス

食品飲料事業

6 レモン事業で H（健康）+ESGを推進

ポッカレモンは本年65周年を迎えました。おいしさだけでなく、様々なシーンでお客様が使いやすいように何度も改良を重ね、中身の果汁や容器にもこだわりが詰まった商品です。コロナ禍による健康意識の高まりに加え、日々の料理での味の変化や、追いレモンなどの使用シーンが拡がったことで、昨年「ポッカレモン100」シリーズは5年連続で過去最高出荷となりました。

キレートレモンでは、新たな機能に着目し、レモン由来モノグルコシルヘスペリジンの働きで一時的に自覚する顔のむくみ感を軽減することができる「キレートレモンMUKUMI」を新発売します。

7 おいしく小腹を満たせる “野菜ポタージュ缶”としてリニューアル！

「冷製缶シリーズ」は、今年「やさいのじっくりコトコト」として生まれ変わりました。昨年、通年販売を開始した「コーンポタージュ」「トマトとたまねぎのスープ」に加え、「じゃがいものスープ」「栗かぼちゃのポタージュ」4品を、年間を通してお届けします。食欲が無い時の「食事替わり」や野菜不足を感じた時に、冷やしても常温でもおいしいスープで手軽に野菜を補給することができます。お弁当の1品や、ローリングストックなど、幅広い飲用シーンを通じて多くのお客様に「やさいのじっくりコトコト」の独自の価値を提供していきます。

ブランドサイトへ

不動産事業

8 恵比寿ガーデンプレイス「センタープラザ」 2022年11月8日グランドオープン

渋谷区恵比寿で運営する大型複合施設「恵比寿ガーデンプレイス」では、4月に先行オープンした「センタープラザ」B2フーディーズガーデンに続き、11月8日に全フロアがオープンします。関東最大の売場面積や新業態を含む、全25の個性あふれる店舗と共に、新しい働きかたを提案するオフィスエリアも同居する新たな施設としてスタートします。開業30周年を前に、新たなメインターゲットを“ライフクリエイターズ”とし、「センタープラザ」を中心に日々を自分らしく愉しめるまちづくりを目指します。

9 サッポロファクトリー「第4駐車場」再開発事業に着手 周辺エリアと創成イーストエリアをつなぐ施設へ

本年5月までサッポロファクトリーの第4駐車場（札幌市中央区北4条東4丁目）として利用していた区画の再開発事業に着手しました。この区画は再開発事業が進む「創成イーストエリア」に位置し、歴史的な建造物を活かしたカフェやレストラン、劇場などが集まる近年注目を集めるエリアです。北海道新幹線の札幌延伸等による周辺環境の変化を捉え、新たな働き方に対応するオフィスを中心とした8階建ての複合型商業・オフィスビルとして2024年8月のグランドオープンを予定しています。

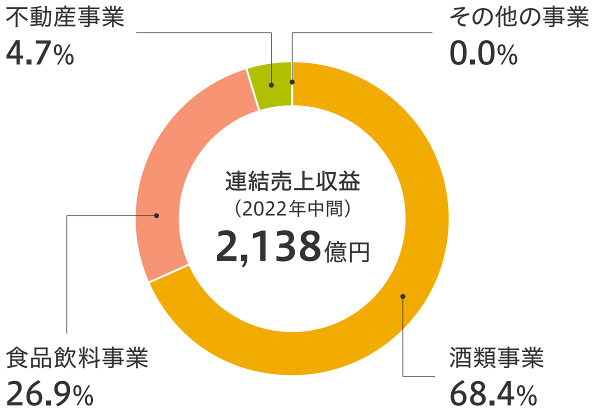
事業の概況（2022年中間）

- 当社グループは、年明け以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたものの、3月にまん延防止等重点措置が解除され、営業時間・人数などの制限も緩和されたことで、主に業務用ビール売上、ビヤホールなどの外食店舗売上が、前年同期から増加しました。一方で、ウクライナ情勢や急激な円安進行、原材料高騰による物価上昇により、消費者の生活防衛意識が高まることが懸念されるなど、依然として先行きは不透明な状況にあります。
  そのような中、連結業績は、前年同期から売上収益は増加、事業利益は改善しました。営業利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期に投資不動産を売却したことから前年同期と比較して減益となりました。
- 酒類事業は、原材料関連費用の増加により利益を押し下げられたものの、業務用市場の売上の回復や、外食事業における不採算店舗の削減等の構造改革の効果が顕在化したことで、売上収益は増加、事業利益は改善しました。
- 食品飲料事業は、不採算自動販売機の削減やカフェ事業の売却等の構造改革により売上収益が減少した一方で、利益改善の効果が寄与し、原材料関連費用の増加の影響を吸収したことで、売上収益は減少、事業利益は改善しました。
- 不動産事業は、昨年の賃貸物件の売却の影響等により、売上収益及び事業利益は減少しました。

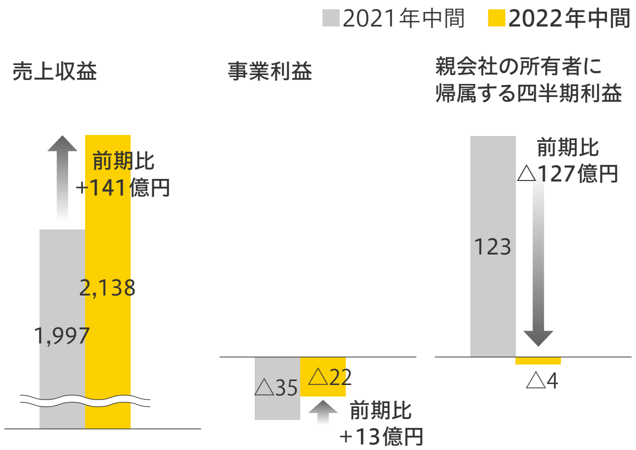
セグメント別売上収益

セグメント	売上収益
酒類事業	1,461億円（12%増）
食品飲料事業	575億円（0.8%減）
不動産事業	101億円（9.4%減）

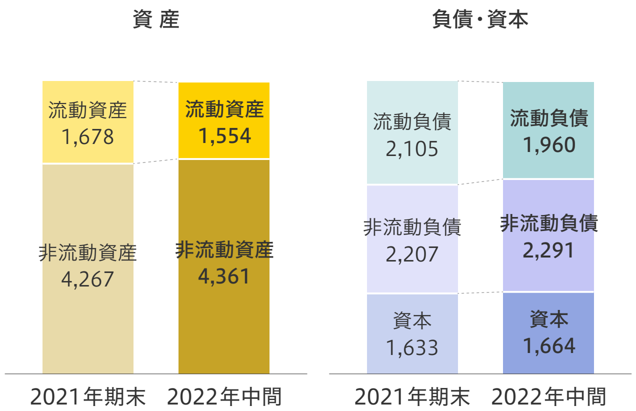
※括弧内の数値は対前年同期の増減率



損益の状況（単位：億円）



財政状態（単位：億円）



優待制度のご案内

2021年度ご優待	長期保有株主様(3年以上保有)		3年未満保有株主様	
	次の1～4の中から一つを選択していただきます。		次の1～3の中から一つを選択していただきます。	
200株～1,000株未満の株主様	1ビール詰め合わせセット(350ml缶×12本) 	2食品・飲料水詰め合わせ(3,000円相当) 	1ビール詰め合わせセット(350ml缶×8本) 	2食品・飲料水詰め合わせ(2,000円相当)
	3サッポログループ ネットショップ限定 ECクーポン(3,000円)	4社会貢献活動への寄付(2,000円)	3社会貢献活動への寄付(2,000円)	

100株～200株未満の株主様、1,000株以上の株主様の優待もご用意しております。

社会貢献への寄付

株主様への優待品に代えて、寄せられました寄付金額と同額を当社からも拠出し、併せた金額を右記の事業に寄付いたします。

自然保護活動支援 海洋資源回収事業
(秋サケ資源回復加速化事業)への寄付(寄付対象:北海道)

ウェブサイトへ

ご優待制度の内容は2021年度の内容です。

▼詳細はこちらから

サッポロホールディングス 株主優待 検索

URL https://www.sapporoholdings.jp/ir/investor/benefit/

適用時期

- 毎年12月31日(株主名簿基準日)現在の株主名簿に記載または記録された100株以上の株主様が対象となります。
- このうち、次の2つの要件を満たした方が長期保有株主様となります。
  ①株主名簿基準日を起点として連続3年以上にわたり、100株以上を保有されている方
  ②上記①の期間、同一株主番号で株主名簿に記載されていた方

※2016年7月に株式併合実施により、それ以前の保有株式については1,000株(単元株)以上保有している株主様が対象となります。

電子提供制度のご案内

会社法改正により **株主総会資料が原則 ウェブサイトで電子提供されます**

2023年3月開催予定の当社株主総会における株主総会資料(株主総会参考書類、事業報告、計算書類及び連結計算書類等)については、当社ホームページ等のウェブサイトに掲載します。株主の皆様には、当該ウェブサイトのアドレス等を記載した書面を送付いたします。

引き続き書面で株主総会資料の受領(書面交付申請)を希望される場合には、みずほ信託銀行証券代行部へお問い合わせいただき、当社の株主総会基準日である12月31日までに所定のお手続きを完了させてください。

今まで
議決権行使書 ＋ 株主総会資料 ➡ 紙で確認

これからは
議決権行使書 ＋ 通知書面 アクセスURL ➡ ウェブで確認

◎主な変更点

ウェブサイトへのアクセス方法等を記載した通知書面をお送りします。
株主総会資料の全文はウェブサイトにアクセスすることで確認できます。
※議決権行使書は原則、今まで通りお送りします。

◎開始時期　2023年3月以降の株主総会より

インターネットのご利用が困難な株主様へ

書面で受領するためのお手続きが可能です。
(書面交付請求)
みずほ信託銀行 証券代行部へお問い合わせください。

本制度について詳しくはこちら　ウェブサイトへ

お問い合わせ先

みずほ信託銀行 証券代行部
株主総会資料ウェブ化に関するお問い合わせ窓口
■電話番号：0120-524-324
■受付時間：平日9:00～17:00
(土・日・祝祭日はご利用いただけません。)

2022年6月30日現在

会社概要

商　　号	サッポロホールディングス株式会社 (英文 SAPPORO HOLDINGS LIMITED)
設　　立	1949年9月1日(創業明治9年)
資 本 金	53,887百万円
事業内容	持株会社
本　　社	〒150－8522 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番1号 (恵比寿ガーデンプレイス内)

役　員 (取締役・グループ執行役員)

取締役(監査等委員である取締役を除く)

代表取締役社長	尾賀　真城
常務取締役	松出　義忠
取締役	佐藤　雅志
取締役	松風　里栄子
取締役(社外)	マッケンジー・クラグストン
取締役(社外)	庄司　哲也
取締役(社外)	内山　俊弘

監査等委員である取締役

取締役 監査等委員長(常勤)	溝上　俊男
取締役(社外)	福田　修二
取締役(社外)	山本　光太郎

グループ執行役員

常務グループ執行役員	野瀬　裕之
常務グループ執行役員	征矢　真一
常務グループ執行役員	三宅　祐一郎
常務グループ執行役員	時松　浩

株式の状況

発行済株式の総数 ………………………………… **78,794,298株**

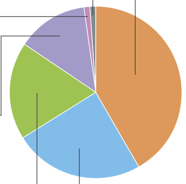
株主数 ……………………………………………………… **76,094名**

大株主 (上位10名及びその状況)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,891	16.52
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,315	4.25
株式会社日本カストディ銀行 退職給付信託 みずほ信託銀行口	2,442	3.13
日本生命保険相互会社	2,237	2.87
明治安田生命保険相互会社	2,236	2.87
農林中央金庫	1,875	2.40
丸紅株式会社	1,649	2.11
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	1,594	2.04
大成建設株式会社	1,400	1.79
株式会社みずほ銀行	1,106	1.42

※持株比率は自己株式(767,278株)を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



株式事務に関するご案内

配当金の口座振込の制度をご存知ですか?

配当金を
郵便局の窓口で
お受け取りの場合

- 受け取り忘れのリスクがあります。
- 郵便局へ行く手間がかかります。

配当金の振込指定の場合

ご指定の口座に振り込まれるため、配当金のお支払い開始日に安全かつ確実に配当金のお受け取りができます。

お手続きに関するお問い合わせ先

- 証券会社に口座をお持ちの株主様は、お取引口座のある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部へお問い合わせください。

特別口座からの振替のお手続きはお済みですか?

特別口座に記録された株式は、単元未満株式(100株に満たない株式)の買取・買増請求を除き、売買や譲渡等のお取引を行うことができません。特別口座に記録された株式の取引を行うためには、証券会社に取引口座を開設していただいたうえで、特別口座から証券取引口座に振替を行っていただく必要があります。
特別口座から証券取引口座への振替をご希望の株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部へお問い合わせのうえ、お手続きをお願いします。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月下旬
配当金受領の 株主確定日	12月31日及び 中間配当を実施するときは6月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 (フリーダイヤル)0120-288-324
公告方法	電子公告 https://www.sapporoholdings.jp/ ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します。